

にちぎん

2017 NO.49

春



インタビュー 扉を開く

坂 茂 建築家

世界の被災地を救う「紙の建築」

地域の底力

北杜市

山梨県北杜市の未来への活力は自然の恵みとよみがえる農地

エッセイ “おかね”を語る

武田双雲 書道家 お金と心構え

特別記事

日本銀行ウェブサイトのリニューアル

日本銀行旧小樽支店

金融資料館と銀行の街小樽

僕は「書道家」として、日頃お仕事をさせて頂いています。具体的な仕事内容は、お家やオフィスに飾る書作品のオーダー頂き、書いて納めたり、書道教室の生徒さんに書の技術や知恵を伝えて、お月謝を頂く。他には企業のロゴや商品のロゴのオーダーがあります。たとえばスーパーコンピュータ「京」のロゴや、NHK大河ドラマ「天地人」などの題字は多くの人が目になっているかもしれません。他には、イベントに呼ばれて大きな書を書いたり、講演会や本の執筆、メディア出演などを行っています。大企業をやめて書道家としてスタートしたのが二五歳。一六年前になりました。母親から一〇〇万円を借りて貯金していた一〇〇万円を足して、二〇〇万円の資金で湘南は辻堂の築一〇〇年近い日本家屋を借りて教室をスタートしました。しかし生徒さんは集まらず、お金はどんどん減るばかり。時間だけが余っていたので、お店が閉まった商店街のようなところでゴザを敷いてストリート書道を開始しました。このストリート書道で人生を変えるような体験をすることができました。ゴザを敷いて作品らしきものを地べたに並べてお客さんを待っていても誰も足を止めず。話しかけ



絵・江口修平

お金と心構え

武田双雲

てくられても緊張して、うまくコミュニケーションが取れず。焦りは増すばかり。お金もないから、お客さんからお金をもらいたいとか、バカにされたくないとか、失敗したらどうしようとか、邪心が心を支配しはじめます。するとやはりうまくいかない。そしてだんだん諦めにも似た気持ちになって、静かに目の前を通る人々を眺めています。ポーツと眺めていると、だんだん「あの人はどんな気持ちで生きているのだろう、なんか辛そうだな、僕の書で元気になってもらいたいな」というような気持ちが湧いてきました。すると不思議と人が足を止めるようになり、「書いてください」と言ってくれるようになり、書いたら涙を流してくれる人まで現れました。僕はハッと気づきました。僕の心の変化と起こる出来事がリンクしていることに。お金や様々な心配を減らし、自分と人の心を整えることに集中するほどに、あらゆることがかうまく流れるようになりました。お金も書の作品もつまりは「心」が重要だということに気づくことができました。心構えが美しくなるほどに、お金だけでなく人間関係や健康などの流れがよくなるということ。それから心を整える修行の旅がはじまりました。

ただ・そうん●書道家。1975年熊本県出身。NHK大河ドラマ「天地人」など数々の題字を手掛ける。著書も多数出版。『ポジティブの教科書』（主婦の友社）は30万部突破。2013年度文化庁から文化交流使に任命され、ベトナム・インドネシアにて活動するなど、世界に向けても日本文化を発信。公式サイト：<http://www.souun.net/>





2 エッセイ／“おかね”を語る
お金と心構え 書道家 武田双雲



4 インタビュー／扉を開く
坂 茂 建築家
 世界の被災地を救う「紙の建築」

11 地域の底力——山梨県北杜市
**山梨県北杜市の未来への活力は
 自然の恵みとよみがえる農地**



18 貨幣の世界——④ [形 その3]
現代の貨幣—国もいろいろ形もいろいろ— (1)

20 特別記事
日本銀行ウェブサイトのリニューアル

日本銀行のレポートから

24 「**経済・物価情勢の展望**」(展望レポート) —2017年1月—

26 「**地域経済報告**」(さくらレポート) —2017年1月—

地域の視点「各地域における住宅投資の動向と関連企業等の対応状況」



30 日本銀行旧小樽支店
金融資料館と銀行の街小樽

33 トピックス
名古屋支店が開設120周年ほか

35 AIR MAIL from Paris
フレンチ・ドリーム

表紙のことば

日本銀行青森支店は、第二次世界大戦末期の昭和二十年(一九四五)五月に、当初は秋田支店管轄の青森駐在員事務所として、旧日本勧業銀行(現みずほ銀行)青森支店内に間借りするかたちで設置されました。その後、地元経済界や金融界からの強い要望を受け支店昇格が決定し、昭和二十一年(一九四六)十一月に、開設されました。戦後に開設された最初の支店です。

表紙の店舗は、旧板柳銀行(現青森銀行)の店舗を購入し、増改築した初代店舗です。戦後の人手・物資不足を背景に工事は遅延し、一部の工事が終わらないまま営業が始まりました。その後、戦災からの復興とともに、事務取扱量が増加し、次第に店舗が手狭となったことから、昭和二十八年(一九五三)十一月に、現在の場所に新築移転されました。

青森支店は、昨二〇一六年に開設七〇周年をむかえました。これからも青森経済の発展に貢献していきたいと考えています。



表紙・画 北村公司

開く

建築家

坂茂

Shigeru Ban



災害支援の現場で、建築家として役に立ちたい——。
紙や木を素材にした大胆かつ優美な建築物で国際的評価を受ける坂茂氏は、
ルワンダから始まり最近では熊本やイタリヤなど
国内外のあまたの被災地支援のために尽力し、「行動する建築家」としても知られる。
建築家としてのそうした活動も評価され、二〇一四年、
建築界のノーベル賞と称されるプリツカー建築賞を受賞した。
坂氏の社会的貢献への意志はどこから生まれ、どのように実践されてきたのか。
建築家のあり方、建築教育についても語っていただいた。

世界の被災地を救う「紙の建築」

世界中の被災地をボランティアで巡る

——坂さんの「歴史を見ても建築家は特権階級と仕事をしてきた。建築家よりも医者や弁護士のほうがよほど社会の役に立っている」という発言は大変印象的です。

坂 最初は医者や弁護士と比べて建築家は何て運が良い仕事だろうと思っていました。彼らは病气やさまざまな問題を抱えている人達と仕事をします。それに対して建築家は、家を建てたり会社のビルを建てたりとクライアントの人生の最高の時に

付き合います。そういう意味で、建築家は恵まれていると思っていました。

けれども、建築の仕事が始めて一〇年ぐらいたった頃、僕は幸運な人達のために仕事をしているだけで、社会に貢献していないのではないかと気がついていました。ほとんどの医者や弁護士は常に弱者のために働いている。一方、建築家は、過去も現在も特権階級のための仕事をしてきたのではないかと。財力や権力を手にした人達は、それを

目に見えるように社会に示したいわけです。そのために建築家が雇われ、立派な建築が造られてきた。大聖堂のような宗教建築も、大企業の建物も同じだと思います。

誤解が無いように言えば、僕は建築家が特権階級の仕事をすることを非難しているのではありません。僕もそういう仕事をしており、特権階級のためであっても、街の宝や市民の誇りになっている記念碑的な建築は数多くあります。でも、僕は自分の経験や知識をもう少し社会一般のために、あるいは自然災害で家を失った人達のために使えない



紙の簡易間仕切りシステム4

災害発生後、仮設住宅に移転するまで数カ月間、多くの被災者は学校体育館等でプライバシーの無い生活を送らざるを得ない。そうした生活を少しでも快適にするべく坂氏は、2004年に発生した中越地震以降、ボランティア・アーキテツ・ネットワーク(VAN)を通じて、紙の間仕切りシステムを提供している。2011年に発生した東日本大震災に際して提供されたシステム4は、紙管の柱と梁のジョイント部分は、一方を一方の穴に差し込んでガムテープで留めるだけという簡単な仕組みとしている。(Voluntary Architects' Network)



かと考えたのです。

——世界中の被災地を回り、復興が始まるまでの一番苦しい時に、建築家として被災者支援に尽力されています。

坂 例えば、地震そのもので人が亡くなることはありません。建築が崩れて人が死ぬ、つまり建築家の責任なんです。そして被災者は、建築のせいで親族を失い、自分自身も怪我をし、さらに避難所や仮設住宅という居心地の悪いところに追いやられる。しかし特権階級の仕事で大

忙しの建築家はその現場にいない。避難所や仮設住宅の設計・改善に建築家は誰も携わってこなかったんです。さらに、被災地の復興時には多くの建築の仕事が出るので、それを楽しみにする建築家もいる。自分達の責任で人に怪我をさせながら、仕事が出るまで指をくわえて待っている。

——建築家は被災者の支援に関わってこなかった。

坂 避難所も仮設住宅も「住環境」であることに変わりありません。その改善に建築家が参加すれば、もう少し居心地の良い空間が提供できるのではないかと思います、ボランティアで被災地を回り始めたんです。

——被災者支援のきっかけは、何だったのですか。

坂 最初は、一九九四年のルワンダ国内の民族紛争で、二〇〇万人以上の難民が近隣諸国に流入しました。その悲惨な難民キャンプの写真を、たまたま週刊誌で見たんです。雨季に雨風をしるげず、難民達は毛布に包まり

震えていました。これではいくら医療支援をしても、住環境の改善なしには救えないと思いました。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の東京事務所に行くと、ジュネーブの本部にコンタクトを取れただけ言われまして。すぐに資料を添えて手紙を送ったものの、一カ月たっても何の返事もありません。業を煮やしてジュネーブ本部にアポなしで乗り込んだところ、運よくシェルター担当のドイツ人建築家に会えました。そこで提案を認められてコンサルタントに採用されたんです。

焦土に建てた仮設住宅「紙のログハウス」

——阪神・淡路大震災では被災地に「紙のログハウス」「紙の教会」をボランティアでつくりました。

坂 あれだけの震災だったもので、どこで何をすればいいのかわからない状況でした。そうした中、新聞報道で、ベトナム難民達が集まるカトリック鷹取教

——その時に提案したのが「紙のシェルター」だったのですね。

坂 再生紙の紙管を使った難民用テントです。UNHCRでは難民にテント用のプラスチックシートだけを支給していましたが、難民たちはテントの骨組みを調達するために周辺の木々を大量に伐採し、その影響で森林破壊が進んでいました。かといってアルミの支柱を支給すると、難民たちは換金目的で売ってしまう。しかし、紙管ならアフリカでも安価で手に入り、捨てられてもゴミ問題にはなりません。それで、紙のシェルターの提案が認められたのです。

会 (神戸市長田区、二〇〇五年より「カトリックたかとり教会」に変更) が被災したことを知りました。マイノリティーの難民

の人達は日本人以上に大変な生活強いられているのではと思いい、そこに向かっただけです。教会は焼失し、たき火を囲んでミサが行われていました。そ

紙のログハウス・神戸 (Takanobu Sakuma)



注1
アルヴァ・アアルト (Alvar Aalto)
一八九八・一九七六
フィンランドの建築家・デザイナー。北欧屈指のモダニズムの建築家としての機能性を重視しつつも、「病院や葬儀場等」人生には物事の組織化があまりにも残忍に感じられる例が多い。よって、建築家の仕事はわれわれの生活パターンを優しいものにするのだと、「私は思う」と自身が述べているように、有機的で人間のなデザインを反映した建築物で知られる。代表的な建築物は、フィンランド・ホーレ、マイレア邸。ちなみに、フィンランド有数のデザイン企業イッタラ (Iittala) 社の定番商品でありフィンランドの湖沼のような形の「アアルト・ベース (Aalto Base)」は、一九三六年にアルヴァ・アアルトによってデザインされた。

れを見て僕は建築家として役に立ちたいと思い、神父さんに「紙で教会を再建しましょう」と提案したんです。「火事で焼けた後に紙の建物なんて」と相手にされませんでしたが、諦めずに毎週日曜日、東京から始発の新幹線で被災地でのミサに通い続けました。

そのうちにベトナムの人達と親しくなりました。彼らは郊外に造られた仮設住宅に移らず、公園でテント生活を続けていた。劣悪な住環境です。それでも「僕達は長田区のケミカルシユーズ

工場でしか仕事がない。一時間も通勤にかかる仮設住宅に移ったら雇ってもらえなくなる」と言うのです。

震災から数カ月してインフラも整ってくる、近隣住民が公園のテント村に苦情を言い始めました。それを知って僕は彼らのために「紙のログハウス」――壁に紙管を利用した仮設住宅――を設計したのです。きれいな外観の仮設住宅をきれいに配置すれば、住民も彼らももう少しここに住み続けることを認めてくれるのではないかと考えたからです。

――「紙のログハウス」は衛生的で夏冬の断熱性能を有し、しかも組み立ても解体も短時間でできますね。

坂 仮設住宅として非常に出来が良く、おかげで神父さんの信頼も得られました。自分で集めた義援金を建設費にして、ボランティアの手で建てるなら、教会を建ててもいいと許可をいただきました。五九本の紙管を建物の主要構造体に使った「紙の教会」です。



紙の教会・神戸 (Hiroyuki Hirai)

使用者の愛情が建物を恒久化する

――紙管を建築に取り入れるきっかけは何ですか。

坂 開発を始めたのは一九八六年です。当時はリサイクルとかエコロジーにほとんど誰も興味を持っていませんでした。きつ

かけは、その年、フィンランドを代表する建築家アルヴァ・アアルト (注1) の展示会の会場設計を手がけた時です。彼の建物のようにふんだんに木を使っている展示場を造りたかったのですが、

展示場を造りたかったのですが、

注2

バックミンスター・フラー
(Buckminster Fuller)

一九五〇、一九八三

アメリカの建築家、発明家。大量生産に向けた軽量プレハブ住宅の提唱者として知られる。また、レーダーのドーム等に使われる正三角形を組み合わせた支柱の無いドーム(ジオデシック・ドーム)構造を考案した。ちなみに、彼のドーム建築を、友人の建築家フライ・オットー(後注参照)は、「前例から制約を受けずに開発された全く新しい軽量構造体の中には、生物学的な物体に非常に近い類似性をもっている」と評した。

注3

フライ・オットー (Fral Otto)

一九二五、二〇一五

ドイツの建築家。「膜」を用いた吊り屋根、大テント等の軽量構造建築のバイオニアの一人。また、大量生産のプレハブ住宅を反自然的な建築と評し、その時々の場の環境に即した(融け込んだ)「自然な建築」を提唱した。二〇〇二年ドイツ・ハノーバー万博日本館(紙管と紙の膜による建築物)では、坂氏の共同制作者となっている。二〇一五年ブリツカー建築賞を受賞。



ポンピドゥー・センター・メス (フランス・メス)

2010年竣工。フランス北東部ロレーヌ地方のメス市に設立されたパリにある近現代芸術の殿堂「ポンピドゥーセンター」の分館。構造用集成材を、六角形を基本パターンにして編み上げ、テフロンコートをしたガラスファイバー製の半透明膜が屋根として覆っている。晴れば中に柔らかな日差しが入ってくる。(Didier Boy de la Tour)

予算も限られ、また、数週間の
展覧会のために木を使い捨てる
のは、もったいない。何か代わ
りになる材料はないか、と見渡
したところ、紙管に出会ったの
です。図面を描く時に使うトレー
シングペーパーやファクス用紙
の芯の紙管がなぜか捨てられず、
事務所にころころ転がっていた。
「あ、これだ!」と。木のような

温かみがあるうえに、固くて折
れない。これを展覧会に使える
いかと実験を始めたのです。
—— 紙管は、建築材料として
十分な耐久性があるのですか。
坂 コンクリートの建物ですら
地震で壊れるように、材料の強
度と建築の強度は関係ないん
です。建築の強度や耐久性は、そ
の材料をどう構造設計して使う

かにかかっています。先ほどの
「紙の教会」は「仮設」として造
りましたが、建築基準法に則り、
耐震性も考えて設計しているの
で、恒久的な建築と同じ仕様で
す。実は「紙の教会」は台湾の
大震災(一九九九年)の後、神
戸から台湾に移築され、約二〇
年たった今も地元の人々に利用
されて真に恒久的な建物となり
つつあります。一方、有名建築
家の設計したコンクリートの建
物であっても商業建築は、三〇
年もたたずに壊されたりしま
す。つまり建築は、建築材料や
設計者の名声ではなく、それを
使う人々から愛されるかどうか
で恒久的な存在になるか、「仮設」
の存在となるかが決まる気がし
ます。
—— それにしても、紙管を建
築に使う発想はチャレンジング
ですね。

米国のバックミンスター・フラー
(注2)やドイツのフライ・オッ
トー(注3)等、独自の構造形式
を持つことで時代に流されるこ
となく、新しい建築を生み出し
ている建築家もいます。僕も学
生時代から他人のまねはしたく
ない、いつか自分なりの建築材
料や構造システムを開発したい
と思っていたんです。
建築材料には、それぞれ適切
な使い方があり、適材適所を考
えています。被災地を支援する
時も、現地で手に入る材料を活
用します。建築で一番重要な事
のひとつには、地域性がありま
す。ルワンダでも東北地方でも、
気候、環境、風土に合った設計、
そしてなるべく地元の素材を使
う。その方が輸送コスト等も節
約できます。
—— 日本に当てはめれば、木
造建築ということでしょうか。
坂 そこには誤解があって、木
造とはフレームの話です。最近
は、ちよつと木を使って「和風」
と思わせるだけの意味の無い木
造までありますが、気候や風土
に合わせる意味では、内壁・外

壁をどうするかということが重要です。また、日本は木造建築については、その開発を戦後全く止めてしまっていることや、火災に対する過剰規制等から、世界的に見て非常に遅れています。

大学での建築教育にも携わり、社会に恩返し

—— 建築家として活動される一方で、国内外で大学教育にも継続的に携わる理由は何でしょうか。

坂 僕が建築家になれたのは米国の大学で非常に良い教育を受けたおかげだと思っています。正直なところ、建築の仕事との日程調整は大変ですし、収益的にはしない方が良いでしょう。しかし、僕も次世代の建築家を育てることとで米国の先生方に恩返しをしたいし、それが自分の社会的な使命の一つだと思っています。

—— 日本の大学と米国の大学では建築教育に何か違いがありますか。
坂 教育も学生のレベルも日本

です。欧州では大規模な木造の建築物が認められ、それに合わせた木製品を造れる企業があり、それらを使いこなせる技術者も育てています。

は米国に完全に負けています。米国の学生はスタジオで学びます。そこでは自分専用のデスクを与えられ、課題に対してそこで一日中デザインや製図に取り組めます。また、スタジオで他の学生と議論もできます。日本のほとんどの学生にはそうしたスペースが与えられていません。建築学科の学生にだけそのようなスペースを与えられないという理由からです。結果、課題を家に持ち帰り、授業がある時だけ模型を持つてくる。また、教育環境だけでなく学生の意識も違います。大学で自分を鍛えるという意識が、日本の学生は米国の学生より薄く、サボってバイトに行ったりする者もいる。

女川町コンテナ多層仮設住宅
東日本大震災後、従来の平屋の仮設住宅建設に際して問題になったことは、被災地である東北沿岸地域には、津波が来ないように高台が少ないことであった。その問題を、丈夫で重ねられ、運びやすく量産できるコンテナを活用して多層化することで解決を図った。(Hiroyuki Hirai)



建築家は、スポーツのプロになるのと同じです。将来プロを目指す人は学生時代も遊んだりしません。

ただ日本の大学教育にはゼミ制度がある。これは米国にはない素晴らしいシステムです。米

国では、スタジオの課題を一セメスター（二学期制の一学期）単位で取り組むケースが多く、中長期的なプロジェクトにはありません。日本の大学のゼミでは担当教員がテーマを示し、それに興味を持った学部・修士・



ばん・しげる ● 1957年、東京生まれ。84年、クーパー・ユニオン（ニューヨーク）建築学部卒業。85年、坂茂建築設計設立。95年、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンサルタントを務め、NPO法人ボランタリー・アーキテツ・ネットワーク（VAN）設立。ルワンダ難民キャンプの支援をきっかけに、世界中の被災地において災害支援プロジェクトを展開する。阪神・淡路大震災では「紙の教会」などを被災地に建設。東日本大震災後には避難所で暮らす被災者のプライバシーを確保するための「簡易間仕切りシステム」を提供した。芸術選奨文部科学大臣賞、朝日賞など国内各賞のほか、2014年にプリツカー建築賞受賞、フランス芸術文化勲章（コマンドール）受章。近年の主な作品に、フランス国立近代美術館分館「ポンピドゥー・センター・メス」、「大分県立美術館」など。建築教育にも積極的に携わり、現在、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授を務める。著書に『紙の建築行動する』（岩波書店）、『NA 建築家シリーズ07 坂茂』（日経BP社）などがある。

博士の学生達が、毎年、入れ替わりながら在籍する。そこで皆が中長期的に、ゼミ独自の課題に取り組むのは非常に良いことだと思います。

—— 大学を出た後は、むしろ日本のほうに建築家が育つ環境があるというお話をされています。

坂 先進国でも途上国でも建築家に住宅の設計を依頼するのはお金持ちだけです。一方、日本では「中間層」が若手建築家に依頼することが意外と多いのです。それが若手のトレーニングになっている。また、大工さんなど施工者が「良い建築をつくらう」という意識が高いので、若い建築家をサポートしてくれます。もう一つ、米国は行き過ぎた訴訟社会なので、施主も施工者もリスクなことをやりたがらない。もう米国では良い建築家が生まれないとされるほどですが、日本はその点でも良い建築家が生まれやすい他国にない環境があると思いますね。

—— 建築家が自分のやりたい仕事を世界で実現しようと思っ

(Blumer-Lehmann AG)



タメディア新社屋（スイス・チューリヒ）
右／建設中。左／完成後の建物内。スイスのメディア会社タメディアの新社屋として建てられた七階建ての木造建築。柱と梁とのジョイントも、梁を楕円形にして固定化することで鉄を使わないようにしている。なお、ポンピドゥー・センター・メスおよび当オフィスビルの構造用木材の加工は、いずれもスイスで行われた。（Didier Boy de la Tour）

たら、人を説得する論理が必要だというお話もされています。坂 建築を設計して「これ、格好いいでしょう」と言っても、「格好いい」は抽象的かつ個人的な感性であり、皆がそう思うわけじゃない。海外で仕事をすると、文化や宗教などバックグラウンドの違う人を説得し、理解を得ないといけません。なぜこのデ

ザインが必要か、この形にするとかが良いのか、感性だけで説明せず、論理を構築して説明する。その能力は建築家にとって重要で、学生時代から訓練を受け、身につけるべきものだと思います。

—— 本日は、貴重なお話をどうもありがとうございました。


（聞き手／情報サービス局長・鶴海誠一）



地域の底力

山梨県北杜市の未来への活力は 自然の恵みとよみがえる農地

美しい景観、水資源、太陽の力。
日本一の「山紫水明」が、
北杜市の農地と人々の暮らしに
新たな息吹をもたらす。



上／耕作放棄地を区画整理し、農業法人に貸し出すことで農地をよみがえらせた北杜市の景色。背景を彩るのは、長野県との境に広がる八ヶ岳。下／日本名水百選に選ばれた、南アルプス山脈と甲斐駒ヶ岳に端を発する尾白川の清流。

取材・文山内史子
写真野瀬勝一

北杜市の宝ものは 日本一の山紫水明

山梨県北杜市は、県最北端に位置する人口約四万八〇〇〇人の自治体だ。二〇〇四年に明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村の七町村が合併し、さらにはその二年後に小淵沢町と合併して現在に至る。

首都圏からは中央自動車道や中央本線を利用すれば二時間ほど、日帰りで往復できる距離にありな



がら、八ヶ岳や南アルプスの甲斐駒ヶ岳、茅ヶ岳などの山々が周囲をとりまく美しい眺めは圧巻。その豊かな自然が生む北杜市のかげがえのない宝は、「山紫水明」だと話してくれたのは、一二年にわたる市政に取り組んできた前市長の白倉政司氏だ（取材時は退任前）。

「北杜市は『山紫水明』が日本一なんです。『山』は文字通り、山岳景観。日本の百名山のうち、八ヶ岳をはじめ八つの山が望めます。『紫』は国蝶に選定された、オオムラサキのことです」

オオムラサキの名は、雄の羽が紫色に輝くことに由来する。その



上／尾白川渓谷にかかる吊り橋を渡って進むルートは、人気のトレッキングコース。下／日照時間日本一という自然の恵みを最大限活用する「北杜サイト太陽光発電所」。

華麗な姿は国内各地で見られるが、なかでも旧長坂町は日本一の生息地として知られる。

「山紫水明の『水』は、日本のミネラルウォーターの三分の一以上を北杜市が産出しています」

北杜市は、日本百名水が三カ所選定されている全国で唯一の自治体でもある。その名水やミネラルウォーターと源が同じ伏流水を、市民がごく当たり前に生活用水として使える暮らしは羨ましい限りだ。

「『明』は日照時間が日本一なんです。県会議員の時代からエネルギーチェンジの必要性を訴えていたこともあり、北杜市市長になったのをきっかけに、太陽光発電に関する世界初の国の研究所誘致に取り組みました」

クリーンエネルギー施設の導入は積極的に行われ、市営の太陽光発電所に加え小水力発電所も設けられた。

「今、日本の若者の価値観が確実



7町村が合併した2004年から市政を担ってきた北杜市前市長の白倉政司氏は、「北杜市の人は何事にも一生懸命なんです」と市民の生真面目な気質を語る。

「転居の際、こんなに美しいところに住んでいいのかと思いました」と話す、北杜市企画部長濱井和博氏。左は「世界に誇る水の山」プロジェクトのポスター。



耕作放棄地が
企業誘致のてこに

白倉氏の言葉どおり、実際に今、北杜市には全国から熱いまなざしが注がれている。それは、耕作放棄

に自然志向へと変わってきているなか、北杜市の『山紫水明日本一』は、大きな意味があると思っております。他との差別化として私たちが掲げる看板は、『一流の田舎まち北杜市』。住んでいる人が誇りを持ち、都会の人の足や心が北杜市に向かうようなまちづくりを目指してきました」

棄地の有効利用に関する動きだ。山梨県は、耕作放棄地率が全国第二位。北杜市でも荒廃農地が増大していたが、状況は好転しつつある。その経緯を、北杜市企画部長の濱井和博氏に伺った。

「かつては養蚕業が盛んな地域でしたが、昭和三十年代に衰退しはじめ、併せて農業従事者の高齢化により荒廃農地が増加しました。そこで、一九九〇年から問題解消の検討が本格化し、区画整理を含めた農地の再編や換地が行われました。そして一九九六年に、農地を預かる農業振興公社が設立されたんです」

公益財団法人である北杜市農業振興公社とは、行政サイドが遊休農地をまとめて預かり、農業法人を誘致する調整役を担う組織だ。たとえ耕作放棄地の権利者が一〇〇人いても、農業法人は市・農業振興公社・県と交渉するだけで済む上、貸す側も借りる側も双方ともに、行政が関わっているということで安心感が生まれる効果もある。

「その後、紆余曲折を経た二〇〇九年、勝沼のミサワワイナリーさ

らが北杜の土地がすばらしいと評価してくださり、ぶどうの栽培を始めたんです。さらにはスプラウト（新芽野菜）の栽培で知られる広島の上農園さんが参入したことで、北杜市での農業法人の農地利用にギアが入りました」

白倉前市長も挙げていた北杜市の日照時間の長さは、雨が少ないことを意味する。すなわち農業に適していないというのが定説だったがゆえに、かつては養蚕に特化していた。ところが、野菜や果物の場合はたっぷり陽を浴びることで、採れ高が増えることがわかってきた。その他豊富な水、昼夜の

尾白川近くの一九七〇年創業の「山梨銘醸」は、初代が水の良さに魅せられてこの地で酒造りを始めた。



寒暖の差など、農業における北杜市の優位点は少しずつ世間に広まり、現在までに一七社が参入を決めている。

農水省からの出向で二年前にこの地に転勤し、全国の事情にも詳しい濱井氏はこうも話す。

「耕作放棄地の解消対策は全国的に行われており、土地改良事業まではなんとか進んでも、農業法人を連れてくるまでにはなかなか至らないんです。北杜市のケー



のどかな田園風景を南アルプス山脈が彩る「水車の里公園」。



アグリマインド代表取締役会長の藤巻眞史氏は、「北杜市農業企業コンソーシアム」の会長でもあり、「北の杜フードバレー」のプロジェクトを推進している。

「スはかなりめずらしい」

「進んでいる理由として、濱井氏は市の対応の早さを挙げる。」

「ものごとくにじっくり取り組む深みがある一方、企業参入については、平均で二年もあれば話が進むスピード感があるんです。たとえば国でこんな制度があるとわかれば、『よし明日行くぞ』となる、ここぞという時の勢いもすごい。必要であれば、議論する前にもう動いている。まさに武田軍の風林火山そのものです」

「首都圏から二時間、という距離もメリットのひとつだ。」

「観光の分野では、これくらいの近さを『神距離』『神時間』と言

うそうですが、朝採れのレタスを、

二時間後には首都圏で食べてもらうことが、将来的に北杜ならでき

るのではないかと思っています」

実は中京圏からも、三時間ほどの距離。今後は太平洋と日本海を結ぶ中部横断自動車道も開通し、北杜市で中央自動車道とクロスする予定だという。現在三カ所あるインターチェンジも増える未来、北杜市には流通のハブとしての期待が高まっている。

未来を担う フードバレー構想

実際に北杜市に参入した農業法人の一つであるアグリマインド代表取締役会長の藤巻眞史氏にも経緯を伺った。トマトジュース等で知られる食品メーカーのカゴメとの技術、販売提携のもと、二〇一四年からトマトの栽培を行っている。

「日照時間が長い、気温差があるなど、北杜市は実は日本一トマト作りに適している地なんです。しかも栽培のための広大な土地があるということでも市に相談したので



ですが、計画から造成まで、二年かかりませんでした。市に農業企業誘致のプロジェクトチームがあり、土地や技術、補助金関係などそれぞれのスタッフが対応した上、候補地の提案から地権者である農家との交渉まで、すべて進めてくれました」

アグリマインドのトマトはオランダの最先端技術を取り入れた養液栽培（注で、ハウスの面積は約二ヘクタール。先が見通せないほどの規模に圧倒される。ガラス張りの屋根を彩るのは、まぶしい青空。日照時間がパーセント長ければ、トマトの収穫量も同じ割合で増えるという。

収穫量だけではなく、おいしさ



アグリマインドのガラスハウスは、アジアでは初のオランダKUBO社製。害虫が侵入しにくい構造であることに加え、入室に関して食品工場レベルの徹底した衛生管理を行い、減農薬での栽培が可能になっている。

もまた違う。真っ赤に熟したトマトは菌ごたえがあり濃厚な味わい。甘みと酸味のバランスが良く、いくらでも手が伸びる。ちなみに、抗酸化作用のあるリコピンの含有量も高いそうだ。

現在、このアグリマインドをはじめ北杜市に参入した企業がコンソーシアム（企業連合）を立ち上げ、農業の六次産業化や物流の効率化などについて共同で取り組む事業が進んでいるのも興味深い。

（注）土を使わずに、肥料を水に溶かした液（培養液）によって作物を栽培する栽培法。



「コンソーシアム全体で今、約五〇〇人の雇用を生んでいるんです。北杜市内だけでは人員が足りずに近隣から通っている人もいます。ただ、働き手のメインは団塊の世代。将来的にもっと若い人たちにも働いてもらうため、きちんと利益が出る農業を目指したい。さらには飲食店から医療関係まで、北杜には魅力的な施設がそろっている、というまちづくりを考えています。最終的にはきちんとオーラル北杜で、食や農業を核としたファードバレーを作ろうと。それが次第に山梨県全体に広まっていけばいいなというのが、将来の夢ですね」

農村が都市と連携する モデルケース

アグリマインドをはじめ大手企業の参入同様、全国から注目されているのは、ごく早い時期から耕作放棄地を資源とみなし、こつこつと地道な活動を積み重ねてきたNPO法人「えがおつなげて」の

代表理事を務める曾根原久司氏だ。曾根原氏はもともと東京で経営コンサルティングを営んでいたが、一九九五年に旧白州町に移住してきた。

「耕作放棄地が多い中、なにか新しい価値やニーズが結びつけば事業になるという発想からでした」

当初、経営コンサルティングとしての拠点は東京に残しつつ一〇〇坪の自給農園を耕すことからスタート。その後、数年かけて開墾

地を二ヘクタールに広げていく。この期間は、知識や技術を習得する学びの時期であったと同時に、NPO法人の立ち上げを見据えた準備期間でもあった。

「農村の資源を生かすには都市との連携や共存が必須だと思っていましたので、都会の人も田舎の人も関心があれば誰でも参加できる異業種交流会を定期的に開いてい

たんです」
そして二〇〇一年、NPO法人

NPO法人「えがおつなげて」の代表理事を務める曾根原久司氏の活動については、『日本の田舎は宝の山―農村起業のすすめ』（日本経済新聞出版社）ほか著書も一読を。



信玄餅で知られる北杜市の老舗菓子店、一九〇二年創業の「金精軒」では、「えがおつなげて」と提携協定を結び、二〇一二年から社員が自らの地大豆として知られる青大豆栽培を手がける。



神奈川県農業生産法人グランパファームと地元地権者が出資した「ドームファーム北杜」では、40棟のドーム型のハウスでレタスの水耕栽培が行われている。

「えがおつなげて」を設立。その活動が脚光を浴びるようになったのは旧須玉町内の限界集落、増富地区の復活劇だった。役場から相談を受けて曾根原さんが提案したのは、都会に住みながらも農業に関心を持つ若者たちのニーズに応える「開墾ボランティア」の募集だ。しかしながら、最初からスムーズにいったわけではない。

「耕作放棄地の開墾に、都会から若者が来ます。



デザイナーの鈴木真穂子氏は、2007年に「NAVY.WO」を設立。2016～17年秋冬は、春を待つ冬山のエネルギーをテーマにした新作「♡AND MOUNTAINS」を発表した。

この地区は交流の拠点になります。そう話したら皆さんがぼかんとした表情になって、こんな限界集落に人が来るわけないだろうと言われました」

地域住民への説明会を何度も行い、ようやく曾根原さんのプランの承諾が得られたのは半年後のことだ。

「開墾ボランティアには、最初の三年間だけでも一〇〇〇人ほどが参加。入れ替わり立ち替わり誰かが来て、耕作放棄地がみるみるよみがえってくる。それだけではなく、若者たちがお年寄りと話をしてたり一緒に酒を飲んだりといった密な交流が生まれてきました」

開墾ボランティアは増富地区の人の心をも耕し、元気をもたらしにくれたのだ。

その後も、耕作放棄地を利用し、首都圏の企業と連携して社員の人材育成や顧客サービスのための農業体験プログラムを実施する「企業ファーム」の仕組みを構築。農地は次々と息を吹き返し、一方で都会から訪れた人々は豊かな自然のなかでの農作業によって心のエネルギーを得る相互作用が生まれた。農業を媒介として、まさしく笑顔が広がっている状況だ。

都市と農村との交流により地域や農業を活性化させる「えがおつなげて」のモデルケースは全国的に広まり、曾根原氏が考案した農村起業家育成プログラムは、三重県庁や北海道庁の研修にも採用されている。曾根原氏は山梨県立農業大学校で新規就農希望者のためのコースで講師を担当しているが、この一二年の間に三〇〇人ほどが実際に就農したとの話も、印象深く胸に刻まれた。希望の光。農業に興味をもっている若者は、決して少なくない。

東京にはない 自然の活力を得る暮らし

最後にお話を伺ったのは、全国で計五店舗を展開するレディースファッションブランド「NAVY.WO」の創業者であり、自らデザイナーを務める鈴木真穂子氏だ。アトリエ兼直営店からほど近い世田谷区在住だったが、現在はそこの住まいはそのままに生活の本拠地を北杜市に移し、ともにブランドを立ち上げたご主人と北杜市―東京間を行き来。鈴木氏のよ



名水百選のひとつ「八ヶ岳南麓高原湧水群」に含まれる、川俣川溪谷の吐竜の滝。



川俣川溪谷にかかる、長さ90メートルの東沢大橋。

うな二地域居住者は最近、北杜市で少しずつ増加しているという。

「子どもがぜんそくをもっていたため、空気のいいところで過ごさせたいとずっと思っていて。三歳になったときに思い切って市に情報を求めて、一軒家を借りました。それまで北杜市とはとくに縁はなかったのですが、山並みが素晴らしいので通るたびにいい場所だなあとはいっていたんです」

当初は休日に北杜市で過ごすことが多かったが、現在は状況が逆転し、忙しい時期を除いては、週二回ほど東京に行く生活。お子さんも北杜市の保育園に通っている。「住んでみても、子どものぜんそくが出なくなりました。日々変わる景色も、何事にも替え難いな



南アルプス山脈と復活した耕作放棄地。自然に恵まれた市内の景色は四季折々、趣きを変えながら生活を彩る。

と思っています。水も野菜もおいしいので、野菜をただ切って食べるというシンプルな食事にいつも感動しています」

プライベートだけではなく、ビジネスの面でも多くの変化があったという。

「対照的なことは、夜が遅くなっても街が明るい東京とは異なり、

こちらでは六時を過ぎると真っ暗になります。北杜市の星空は、とてもきれいですし、自然に身体をオフへと切り替えてくれる環境があるんです。また、東京では仕事の事を考えすぎたりでなかなか寝付けないこともありましたが、こちらでは夜、緑の香りで気がふつと抜ける。そういう神経が休まる時間がとても大事だと思うようになりました。仕事に対する集中力が出てきましたし、今までは違う角度からの発想のエネルギーも感じます」

ファッション業界では最近、きれいな景色の中でサービスを提供するということをテーマとした提案が注目されているが、鈴木氏もまた、新たなことを手がけられないかと思案しているそうだ。

「便利な東京では、たとえば電車は何本も来るし、いつでもどこでもご飯が食べられる。毎日漫然としていてもなんとなく生きていく。でも、子どもや未来を育てていくためには、大人がきちんといろいろなことを考えなければなりません。ここにはそのための活力を満たす、何かがあると思うんで



尾白川の川底は砂地ではなく花こう岩でできているために清らかな流れが保たれ、晴れた日には緑色にきらめく。

す。この場所をサービスとして提供して、何かできないかなと」

人が生きていくための 原点が北杜市にはある

雲や山並みなど、北杜市の景色を織り込んだやさしいデザインを生地を拝見しながら、白倉前市長のお話が胸をよぎった。

「人類には、四つの赤信号があります。食料、環境、資源エネルギー、そして水。生きていくための原点であるそのすべてが、北杜市の潜在力であり能力。だからこそ、これから注目されると思います」

市では二〇一四年に「安全・安心 日本の台所」という宣言を行

い、農業に根ざした市政と市民生活のスタンスをより明確にした。また、同年に登録された「南アルプスユネスコエコパーク」に北杜市の甲斐駒ヶ岳や白州・尾白川おしろがわなどが含まれたことをきっかけに、これまでも増して水資源の保全活動に力を注ぐ「世界に誇る『水の山』」プロジェクトが立ち上がっている。

「財政健全化など、実現しなくてはならない課題はたくさんあります。でも北杜市には、夢もまたたくさんあるんです」

白倉氏が語った「生きていく原点」である「山紫水明」の宝と夢は、これからも北杜市の人々に受け継がれてゆくだろう。



貨幣の世界

4

明治以降、日本で使われる貨幣は、基本的に「円形」です。日本の通貨単位が「円（圓）」となった理由が、維新の英傑の一人で早稲田大学を創設した大隈重信が、指で輪を作ったことに由来しているという説もあるくらいです。しかし、広く世界を見渡すと、貨幣同士の識別を簡単にするためや偽造防止のために、あるいは、貨幣収集家向けにさまざまな形の貨幣が生み出されています。今回は、近現代に登場した角がある形「多角形」の貨幣に注目してご紹介します。

形

その3

現代の貨幣 国もいろいろ形もいろいろ (1)

三角形

「智に働けば角が立つ」とは夏目漱石の小説『草枕』の一節ですが、三角形の貨幣では、角が立ち過ぎて指にひっかかりそう

ですし、転がりにくいので自動販売機で詰まりそうですし、日常使いの貨幣の形として扱いづらいかと思われま

れる貨幣として流通していません。その中から、フィリピンとオランダの貨幣をご紹介します（写真3、4）。

そんな三角形の貨幣を日常的に使う貨幣に採用した国が世界にただ一カ国あります。日本からはるか南に八〇〇〇キロ、南太平洋に浮かぶ島国クック諸島です（写真1）。

また、収集家向け記念貨幣には、正四角形だけでなく、長方形のものもみられます（写真5）。

五角形

記念貨幣であれば、使用されることを前提としていないためか、世界を見渡すといくつかの国から三角形の貨幣が発行されています。その中から、バルト海に臨む北欧の国エストニアの貨幣をご紹介します（写真2）。

「★」や五芒星ごぼうせいも含めればよくみかける五角形も、こと貨幣となると三角形同様に希少です。日常使いの貨幣は、アラビア半島の南端に位置するイエメンにおいて使われていた程度といわれています（写真6）。

六角形

（写真2）。

四角形同様に、インド等の南アジア諸国で

四角形

四角形の貨幣は、日本では近代以前の江戸幕府が発行した一分金程度ですが、諸外国では、近現代においても日常的に使用さ

日常的に六角形の貨幣が使われていました。今回は、それと同じ形の記念貨幣をご紹介します（写真7）。

今回はさらに「角」が立ちます。

写真1 クック諸島 2ドルアルミ青銅貨（2015年発行）



角こそ丸めているものの、正三角形です。表面は、他の多くの英連邦諸国同様に元首であるエリザベス二世女王です。裏面は、同国の伝統的民具である「すりこぎ」とそのためのテーブルがデザインされています。ちなみに、同じデザイン、大きさ、額面で白銅貨も発行されていました。（直径約23.9mm、重量7.6g）

写真5 フランス 1/4ユーロ銀貨 (2007年発行)



長方形を絵のキャンパスに見立てた貨幣です。フランス第三共和国期に活躍した画家エドガー・ドガの肖像および彼の代表作の一つである「エトワール」(1878年頃作)の一部が使われています。なお、この銀貨はユーロ貨幣ですが、フランス国内でのみ通用するものです。フランスは自他ともに認める芸術の国だけあって、美術関係のテーマに基づく収集家向け貨幣が多数発行されています。この形の貨幣に限っても、ルノワール、カンディンスキー、ブラック、ピカソといった画家が取り上げられています。(21×30mm、重量15g)

写真6 イエメン 1/8アーマドリアル銀貨
(発行期間ヒジュラ歴(イスラム歴)1367～1380年注)



(直径約19.9mm)

注:ヒジュラ歴(イスラム歴)1367年1月1日は、西暦1947年11月15日。また、ヒジュラ歴1380年12月31日は、西暦1961年6月14日となります。

写真7 インド 20パイサルアルミニウム貨 (1983年発行)



貨幣の表面にFISHERIES、FAOという文字が見えます。1984年、FAO(国連食糧農業機関)がローマにおいて漁業に関する国際会議を開催することを記念し、インドをはじめいくつかの国が、1983～1984年にかけて記念貨幣を発行しました。(直径約26mm、重量2.3g)

(写真はすべて個人蔵)

写真2 エストニア 100クローン金貨 (2007年発行)



ほぼ純金のこの貨幣は、エストニアの通貨単位クローン(Krooni)が、同国で再導入されて15周年を記念して発行されました。エストニアは、1918年にロシアから独立し、クローンを通貨単位として採用しました。1940年、ソビエト連邦に占拠され、1990年に再独立しました。なお、エストニアは、2011年よりユーロを導入しています。(一辺約27mm、重量7.78g)

写真3 フィリピン 1センチモアルミニウム貨
(発行期間1975～1978年)



この貨幣にデザインされている男性は、その面に小さく印されているLapu Lapuという名の人です。彼の名を冠したフィリピンLapu-Lapu市のホームページによると、1521年、世界一周の途上のマゼランを打ち負かした同地のムスリム(イスラム教徒)の王とのことです。(一辺約19mm、重量1.22g)

写真4 オランダ 5セント白銅貨 (発行期間1913～1940年)



オランダ王国という旨の刻印がオランダの花を囲んでいます。ちなみに、オランダ王室オラニエ=ナッサウ家のオラニエは、英語ならばオレンジです。(直径約21.3mm、重量4.5g)

日本銀行ウェブサイトのリニューアル

日本銀行は、2016年の大みそかに、ウェブサイトをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、デザインを変更し、トップページには、1. 日本銀行が当サイトを通じて発信したい情報、当サイトを利用する多くの方が関心をお持ちと思われる情報、および日本銀行をより身近に感じていただける情報を掲載していく領域を設置しました。

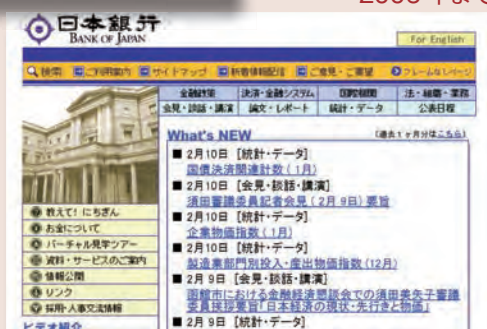
当サイトの利便性向上のために、2. 探したい情報に分かりやすくアクセスできる工夫をしたほか、3. スマートフォン等の小さな画面でも最適なレイアウトで表示されるようにしました。さらに、当サイトのリニューアルに対応して4. 時系列統計データ検索サイトの利便性も向上しました。



歴代トップページ
2016年まで



2010年まで



2006年まで

1

スライドショーとピックアップニュース

これまで、当サイトのトップページを通じて発信してきた更新情報の多くは、数日経過すると、トップページから情報にアクセスできませんでした。スライドショー(トップページ **A**)には、日本銀行が当サイトを通じて特に発信したい情報、当サイトを利用する多くの方が関心をお持ちと思われる情報、および日本銀行をより身近に感じていただける情報を一定の期間掲載しています。また、スライドショーに掲載する情報に準じるものは、ピックアップニュース(トップページ **B**)に掲載しています。

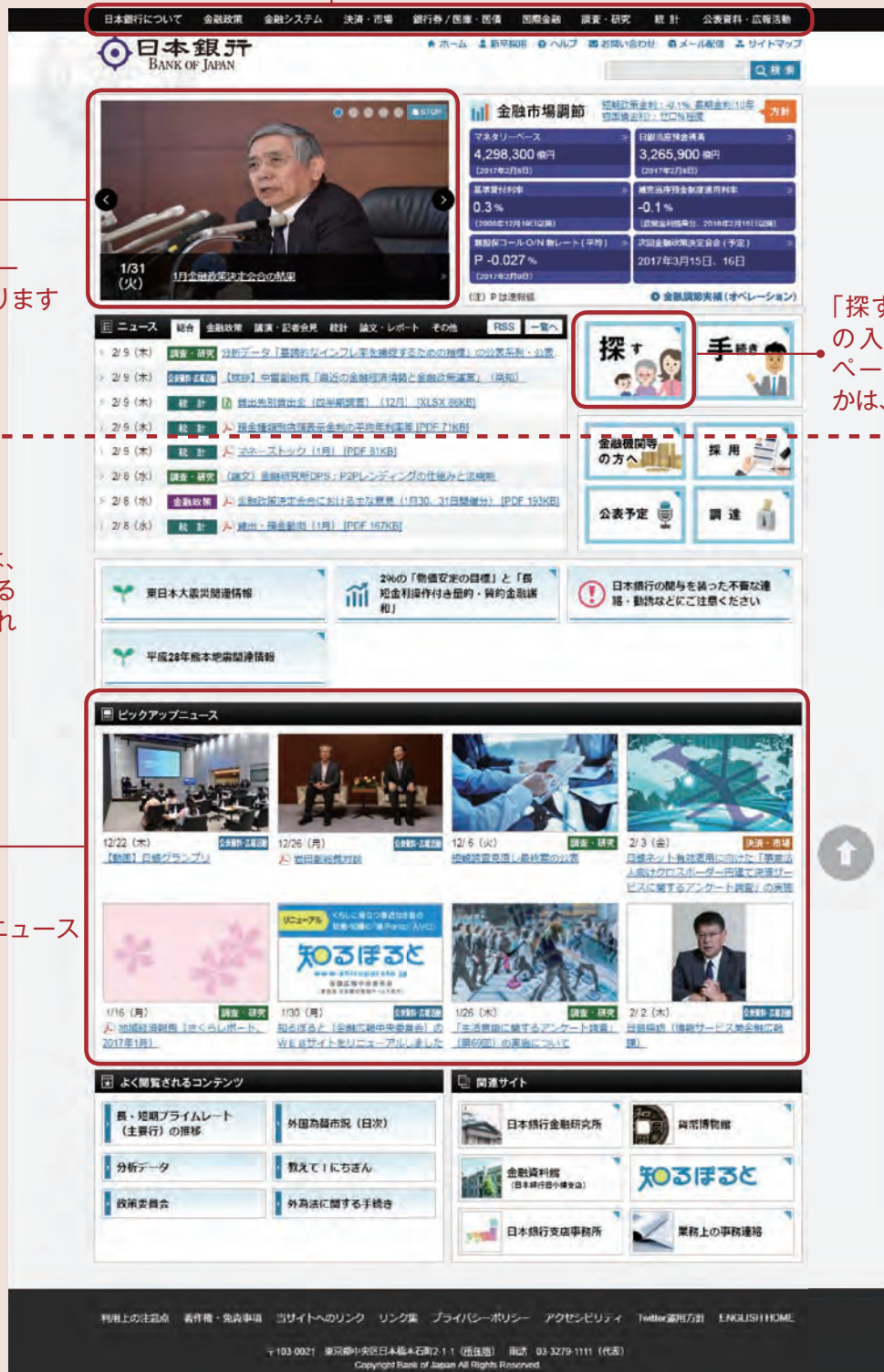
●グローバルナビゲーション(説明は次ページへ)

A スライドショー
画像が切り替わります

この線から下は、
スクロールする
ことで表示される
箇所

B ピックアップニュース

「探す」ページへの
入口(どんな
ページが現れる
かは、次ページへ)



<http://www.boj.or.jp/>

リニューアル後の日本銀行ウェブサイトのトップページ(全体像)

2

探したい情報へのアクセスの工夫

日本銀行のウェブサイトに掲載している各種情報へアクセスする方法の一つに、各ページ上部にあるグローバルナビゲーションからたどる方法があります。グローバルナビゲーションの項目にマウスをかざすと、各グローバルナビゲーション配下のコンテンツにたどれるリンクが表示されるようになりました。

しかし、グローバルナビゲーションからたどる方法は、ある程度、当サイトにおける情報の分類を知らないという意見が寄せられました。こうした意見も踏まえ、利用の目的に応じて資料を探せるよう、例えば、グローバルナビゲーションの分類を意識することなく、目的の情報にたどり着けるよう「探す」ページを新設しました。トップページには「探す」ページ（前ページ参照）への入口を設置しています。

グローバルナビゲーションの例（決済・市場）



「探す」ページ：ここからさまざまな資料にアクセス可能



3

スマートフォン対応

リニューアル後の日本銀行ウェブサイトでは、利用する画面の大きさに応じ、最適なレイアウトでコンテンツが表示されます。

これまで、日本銀行ではスマートフォンで見やすいページを作成してきました。しかし、このようなスマートフォン専用ページは、一部にとどまっておらず、多くのページでは、スマートフォンのように小さな画面で閲覧すると、文字が小さく閲覧しづらいという意見が寄せられました。こうした意見を受け、当サイト内のほぼすべてのページにおいて、画面サイズに応じてレイアウトを自動的に調整するようにしました。

スマートフォンで表示したときのトップページ



パソコンで表示したときのトップページ



タブレットで表示したときのトップページ



4

時系列統計データ検索サイトの利便性向上

日本銀行では、さまざまな統計データを公表しているほか、統計の解説ページを掲載しています。個別統計の解説等を掲載しているページと長期時系列データを掲載しているページ間の往來を改善しました。

また、当サイトの統計ページについては、従来の制度別分類に加え、統計分野別の新たな分類での情報発信も行っています。

なお、当サイトの利用に関するご意見等は、情報サービス局までメールにてお願いします。prd.hp-mds@boj.or.jp



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月および10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2017年1月の展望レポート（基本的見解は1月31日公表、背景説明を含む全文は2月1日公表）のポイントを解説します。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/

「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

— 二〇一七年一月 —

二〇一六〜二〇一八年度の 中心的な見通し （図表1.2）

【景気】

海外経済の成長率が緩やかに高まるもとで、きわめて緩和的な金融環境と政府の大型経済対策の効果を背景に、二〇一八年度までの見通し期間を通じて、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられる。

【物価】

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、エネルギー価格の動きを反映して0%程度から小幅のプラスに転じたあと、マク

ロ的な需給バランスが改善し、中長期的な予想物価上昇率も高まるにつれて、二%に向けて上昇率を高めていくと考えられる。

リスクバランス

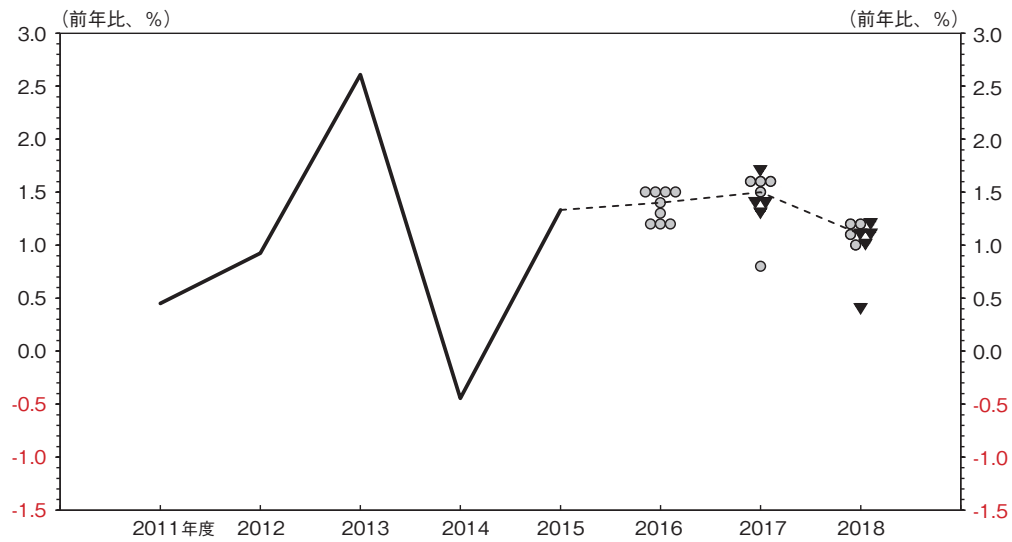
リスクバランスをみると、経済・物価ともに下振れリスクの方が大きい。物価面では、二%の「物価安定の目標」に向けたモメンタムは維持されているが、なお力強さに欠け、引き続き注意深く点検していく必要がある。

金融政策運営

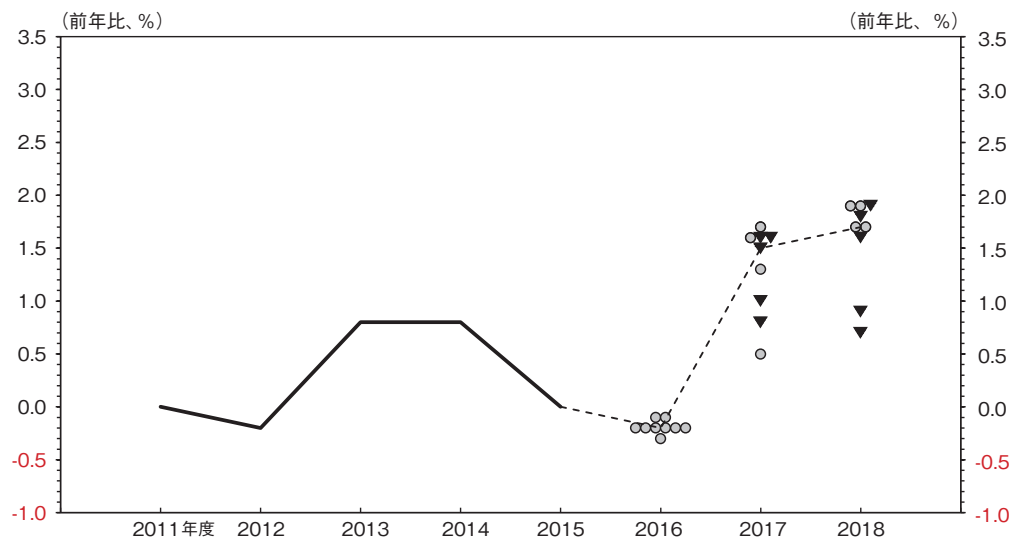
二%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。消費者物価指数（除く生鮮食品）の前年比上昇率の実績値が安定的に二%を超えるまで、マネタリーベースの拡大方針を継続する。今後とも、経済・物価・金融情勢を踏まえ、「物価安定の目標」に向けたモメンタムを維持するため、必要な政策の調整を行う。

図表1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ○、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すと同時に、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。○は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

(注3) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) は、消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

図表2 政策委員見通しの中央値

(対前年度比、%)

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2016 年度	+ 1.4	- 0.2
(10 月時点の見通し)	(+ 1.0)	(- 0.1)
2017 年度	+ 1.5	+ 1.5
(10 月時点の見通し)	(+ 1.3)	(+ 1.5)
2018 年度	+ 1.1	+ 1.7
(10 月時点の見通し)	(+ 0.9)	(+ 1.7)

(注1) 2015年1月の中間評価以降、原油価格が消費者物価に大きな影響を及ぼしていることを踏まえ、各政策委員は、見通し作成に当たって同じ原油価格の前提を用いるとしてきたが、消費者物価 (除く生鮮食品) の前年比に対するエネルギー価格の寄与度が縮小してきたことから、今回、各政策委員がそれぞれの前提を用いて見通しを作成する扱いとしている。なお、寄与度については、2016年度は-0.6%ポイント程度であるが、2017年初に概ねゼロとなり、その後、若干のプラスに転じていくと試算される。

(注2) 各政策委員は、消費税率については、2019年10月に10%に引き上げられることを前提として、見通しを作成している。



日本銀行のレポートから

日本銀行では、年4回（1月、4月、7月、10月）、全国32支店の支店長などが本店に集まり、総裁以下全役員と「支店長会議」を開きます。支店長会議の場では、全国の支店長などが、経済指標の分析や企業等への面談調査等を通じて収集した情報をもとに、各地域の経済金融動向等について報告・討議します。こうした分析・情報に基づく各支店などからの報告を支店長会議にあわせて集約したものが「地域経済報告」（さくらレポート）です。全国を9地域に分け、景気情勢に関する報告を集約した「地域からみた景気情勢」と、その時々タイムリーなトピックを採り上げ企業等の生の声を収集・整理した「地域の視点」、全国9地域の金融経済概況、参考計表で構成されています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

「地域経済報告」（さくらレポート）

二〇一七年一月「抜粋」

I. 地域からみた景気情勢

各地域からの報告をみると、東海で、「緩やかに拡大している」としているほか、残り八地域では、「緩やかな回復基調を続けている」等としている。この背景をみると、海外経済が緩やかな成長を続けるもとの、所得から支出への前向きな循環が働いていることなどが挙げられている。

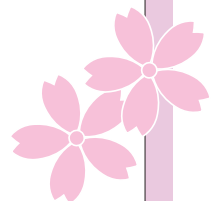
各地の景気情勢を前回（一六年十月）と比較すると、三地域（東北、関東甲信越、東海）から、判断を引き上げる報告があった。この背景をみると、三地域とも、昨年初以降の株価下落や夏場の天候不順の影響が薄れたこと等から、個人消費の判断を引き上げているほか、東北、関東甲信越では、新興国経済の減速の影響が和らいでいること等から、生産についても判断を引き上げている。一方、残り六地域では、景気の改善

度合いに関する判断に変化はないとしている。

公共投資は、三地域（北海道、北陸、関東甲信越）が「増加」という表現を用いているほか、東北は「高水準で推移」としている。また、四国が「持ち直し」という表現を、三地域（東海、近畿、中国）が「下げ止まり」という表現、それぞれ用いている。一方、九州・沖縄では「持ち直しの動

	【16/10月判断】	前回との比較	【17/1月判断】
北海道	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
東北	生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、基調としては緩やかな回復を続けている	➡	緩やかな回復基調を続けている
北陸	一部に鈍さがみられるものの、回復を続けている	➡	回復を続けている
関東甲信越	輸出・生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、緩やかな回復を続けている	➡	緩やかな回復基調を続けている
東海	幾分ペースを鈍化させつつも緩やかに拡大している	➡	緩やかに拡大している
近畿	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
中国	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
四国	緩やかな回復を続けている	➡	緩やかな回復を続けている
九州・沖縄	熊本地震の影響が和らぐもとの、緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している

（注）前回との比較の「➡」、「➤」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化することを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➤」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



きが一服している」としている。

設備投資は、七地域（東北、北陸、関東甲信越、東海、近畿、中国、四国）が「増加」という表現を用いている。一方、二地域（北海道、九州・沖縄）では、「高めの水準ながら減少している」としている。

この間、企業の業況感については、五地域（北陸、東海、近畿、中国、九州・沖縄）が「改善」という表現を用いているほか、三地域（北海道、東北、関東甲信越）が「横ばい」等という表現を用いている。また、四国が「総じて良好な水準を維持しているが、製造業を中心にやや慎重な動きもみられる」としている。

個人消費は、近畿が「一部に弱めの動きもみられる」としつつも、全体としては、二地域（北海道、九州・沖縄）が「回復」という表現を、三地域（北陸、東海、四国）が「持ち直し」という表現を、四地域（東北、関東甲信越、近畿、中国）が「底堅く推移している」という表現を、それぞれ用いている。

百貨店販売額は、「高額品販売を中心に弱めの動きがみられる」、「衣料品を中心にやや弱めの動きとなつている」等の報告が引き続きみられたもの

の、昨年初以降の株価下落や夏場の天候不順の影響が薄れたこと等から「前年割れの状況が続いているが、秋口頃に比べると、マイナス幅が幾分縮小しつつある」、「持ち直している」、「底堅く推移している」等の報告があった。また、スーパー販売額は、天候不順の影響が薄まったこともあり、多くの地域から、「堅調に推移している」、「持ち直している」等の報告があった。このほか、コンビニエンスストア販売額は、多くの地域から「増加している」、「堅調に推移している」等の報告があった。

乗用車販売は、多くの地域から、新型車投入効果もあつて「持ち直している」等の報告があった。また、家電販売は、「堅調な動きが続いている」、「底堅く推移している」等の報告があった一方、「前年を下回っている」等の報告がみられるなど、地域によって区々となつている。

旅行関連需要は、多くの地域から、国内旅行を中心に「堅調となつている」、「底堅く推移している」等の報告があった一方、「弱めの動きとなつている」等の報告もあつた。この間、外国人観光客は、引き続き「増加している」との報告があつた。

住宅投資は、三地域（北陸、中国、九州・沖縄）が「増加」という表現を用いているほか、東北が「高水準で推移している」としている。また、五地域（北海道、関東甲信越、東海、近畿、四国）が「持ち直し」という表現を用いている。

生産（鉱工業生産）は、四地域（北陸、東海、近畿、九州・沖縄）が「増加」という表現を、東北が「持ち直し」という表現をそれぞれ用いている。また、三地域（北海道、関東甲信越、中国）が「横ばい」という表現を用いている。一方、四国は「持ち直しが一服している」としている。

雇用・所得動向は、全ての地域が「改善している」等としている。

雇用情勢については、全ての地域が「労働需給が着実な改善が続いている」、「引き締まっている」等としている。雇用者所得についても、全ての地域が「改善が続いている」、「緩やかに増加している」等としている。

II. 地域の視点

「各地域における住宅投資の動向と関連企業等の対応状況」

1. 各地域における最近の

住宅投資の動向とその背景

(1) 概要

各地域の住宅投資（着工ベース）は、全体として持ち直しが続いているとみられる。利用関係別にみると、貸家は、堅調に増加しているとする先が多い。また、持家は、二〇一四年四月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減で落ち込んだ水準に比べると改善してきているとする先が多い。分譲戸建は、多くの先が緩やかに持ち直しているとしている。一方、分譲マンションは弱めの動きとなつているとする先が目立つ。

(2) 利用関係別の着工動向の特徴とその背景

利用関係別の着工動向の特徴とその背景は以下のとおり。

① 持家

全国的に、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減で落ち込んだ水準に比べると改善してきているとする先が多い。この理由としては、雇用・所得環境の改善、住宅ローン金利の低下、住宅資金贈与の非課税制度等が指摘されており、従来は持

家に手が届かなかった若年層等へと購買層が広がりつつあるとの声も多い。ただし、一部の先からは、消費税率の再引き上げの延期で顧客の購入を促す要因が減り、商談が長引いているとの声も聞かれている。この間、リフォーム需要も、高齢化に伴うバリアフリー化のニーズの高まり等を背景に、売上全体に占めるシェアは小さいながらも増加しているとの声も聞かれている。

② 貸家

・都道府県単位でみると、人口が減少に転じている地方も含めて、幅広い地域で着工が増加しているとの声が聞かれている。この背景をみると、東京等の大都市だけでなく地方でも、都市部や、郊外にある工場の近隣など、単身世帯等が増加しているエリアがあり、そうしたエリアを中心に、入居需要への期待と相続税節税や低金利下での資産運用ニーズとが相俟って地主等が積極的に貸家経営に乗り出しているとの声が多い。加えて、こうした「追い風」を背景に、貸家の建築請負・サブリースを手がける業者が積極的な営業スタンスにあることも、着工を後押ししているとの

声が多い。

・ただ、半面では、多くの地主等が短期間のうちに貸家経営に乗り出した結果、貸家市場全体でみると、需給が緩みつつあるとの声も聞かれている。実際、賃貸物件の仲介業者等からは、郊外の築古物件など相対的に魅力の乏しい物件を中心に、空室率の上昇や家賃の下落がみられるとの声も聞かれている。

・この間、企業からは、金融機関の貸家向けの融資姿勢は積極的との声が多く聞かれているが、一部には供給過剰懸念から慎重化しつつあるとの声もある。

③ 分譲（マンション）

・東京など大都市の中心部では、用地取得費の上昇等に伴う物件価格の上昇により販売が減速するも、新規の着工は、用地取得難もあつて弱めとなつているとの声が多い。一方、地方では、販売価格の上昇が比較的緩やかなも、高齢者を中心に郊外の持家から利便性の高い都市部のマンションへ住み替える動きがみられており、販売・着工ともに底堅く推移しているとの声が多い。

④ 分譲（戸建）

・販売・着工とも、住宅ローン金利の低下等に伴い、若年層等へ購買層が広がりつつある中で、幅広い地域で緩やかに持ち直しているとの声が多く聞かれている。また、価格上昇が目立つ大都市中心部のマンションを諦め、割安感のある郊外に分譲戸建を購入する動きがみられるとの声も聞かれている。

2. 先行きの住宅投資の見通し

先行きも、各地域の都市部を中心に世帯数の増加が続く中で、緩和的な金融環境、相続税節税ニーズ等の「追い風」に加え、住宅関連企業が環境性能・耐震性に優れた住宅や低価格住宅の提供等により需要の掘り起こしに注力していることもあつて、住宅投資は持ち直しが続くと思われ多い。

このうち貸家については、地主等の節税志向や資産運用ニーズの高まりに加え、建築請負・サブリース業者等の積極的な営業もあつて、当面は堅調に推移するとの声が多く聞かれている。ただし、都市部で貸家建設に適した遊休地が少なくなつていたり、郊外を中心に供給過剰感が高まりつつある

ことを理由に、先行きを慎重にみる先が徐々に増えつつあるようになりつつある。

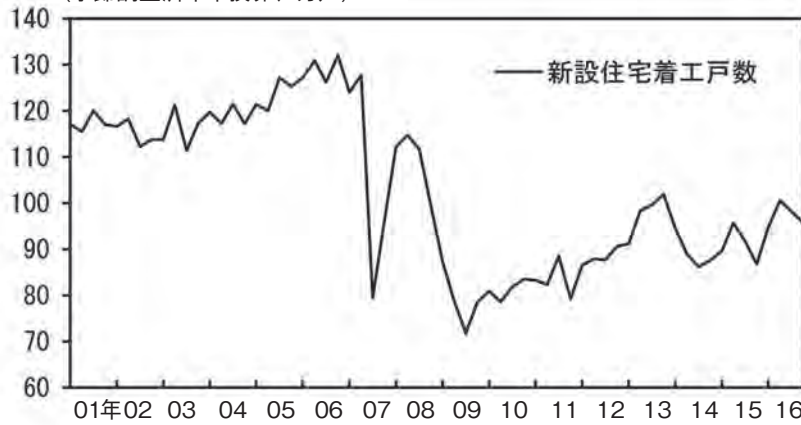
3. 住宅関連企業にとっての経営課題等

関連企業に経営課題を伺うと、足もとでは、職人不足を指摘する声が多い。こうした中、自社内での職人育成やプレカット部材の活用による省力化等の取り組みがみられているが、課題解決には至っていないとする声が多い。

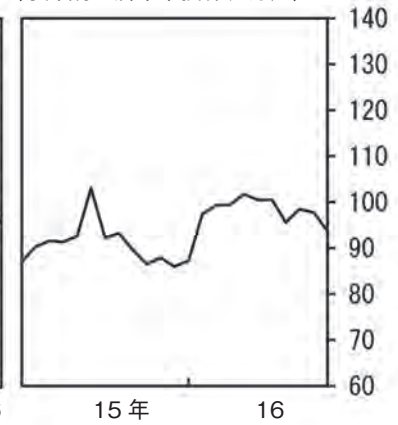
中長期的には、世帯数の減少に伴い新築需要の縮小が避けられないとみる声が多い。一方で、既存物件のリフォーム・リノベーション需要は、空き家の有効活用に向けた機運の高まりもあり、今後の更なる増加に期待が寄せられている。こうしたも、多くの先では、既存物件のリフォーム・リノベーション事業の強化が課題として、専担部署の設置等の体制整備に取り組んでいる。この間、今後の更なるリフォーム・リノベーション需要の喚起のためには、中古住宅について、資産価値が適正に評価される仕組みを作り、適正価格での売買を容易にしていける必要があるとの声が多く聞かれている。

(1) 新設住宅着工戸数

(季節調整済年率換算、万戸)

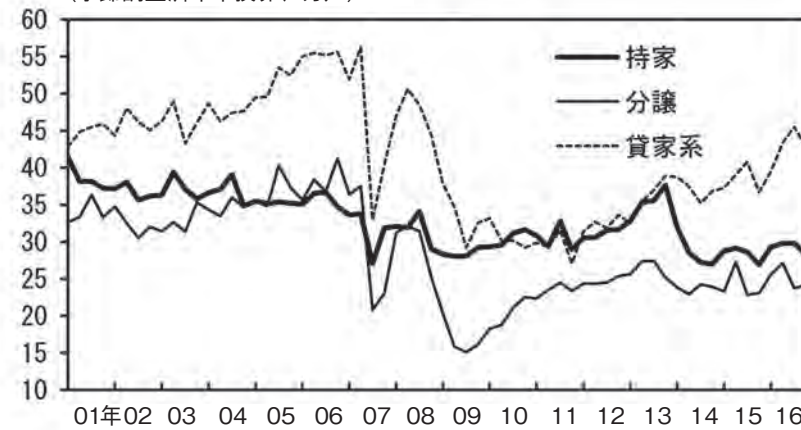


(季節調整済年率換算、万戸)

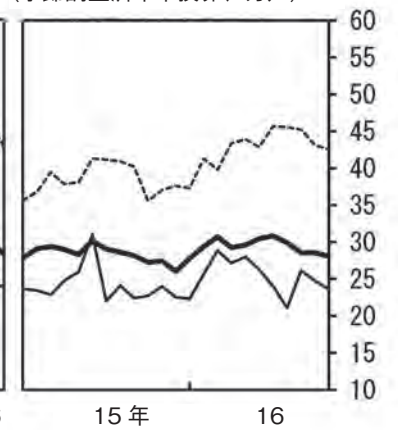


(2) 利用関係別の新設住宅着工戸数

(季節調整済年率換算、万戸)

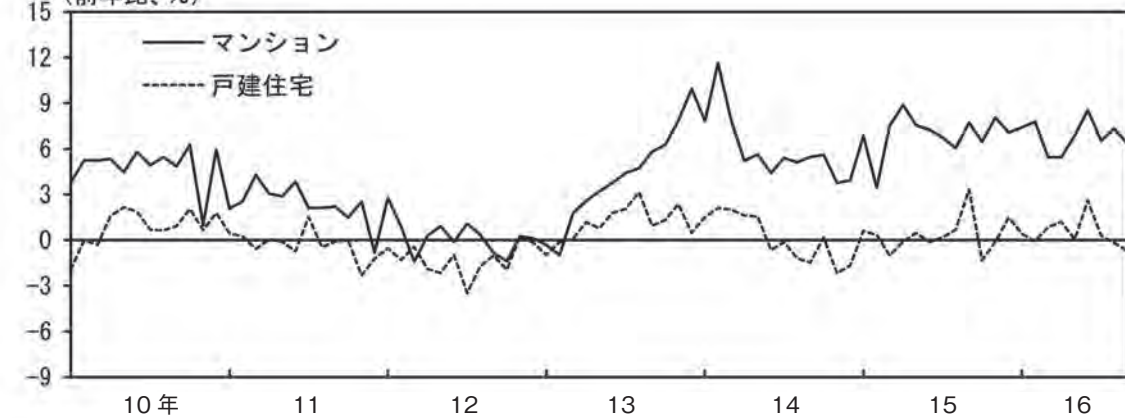


(季節調整済年率換算、万戸)



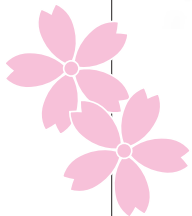
(3) マンション・戸建住宅の販売価格

(前年比、%)



(注) 1. (1)、(2) の2016/4Qは、10～11月の値。

2. (3) は、新築および中古物件が調査対象(マンションは主として中古物件)。戸建住宅は、持家(土地売買を伴うもの)と分譲戸建が対象。
(出所) 国土交通省



「小樽」と聞いて何をイメージされますか？ 運河やガラスなどで有名な小樽ですが、近代銀行建築が数多く残る「銀行の街」であったことはあまり知られていないかもしれません。建築家辰野金吾らにより手掛けられ一九一二年（明治四五年）に竣工した日本銀行旧小樽支店の建物は、歴史的な銀行建築の一つです（小樽市指定有形文化財）。現在は金融資料館として市民に親しまれ、観光客を楽しませています。今回は同館の魅力を、その歴史に関する展示からご紹介します。

小樽の発展と

日本銀行小樽支店

日本銀行は、一八九三年に小樽支店の前身である「小樽派出所」を設置し、一八九七年に「小樽出張所」へ昇格させました。同年日本は、金本位制度へ移行し、金準備の充実が求められていました。そのため日本銀行は、一九〇〇年に小樽出張所内に砂金分析室を設置し、道内産の砂金買い入れを開始しました。現在、金融資料館の歴史展示ゾーンでは、当時の砂金買い入れの際に使用していた砂金計量器も展示しています。

小樽は国際貿易港への指定（一八九九

日本銀行旧小樽支店 金融資料館と銀行の街小樽



現在も近代銀行建築が立ち並ぶ色内町の十字路

年）や鉄道の発達に伴う商圈の拡大などにより、貿易港として発展を続け、一九〇〇年代に入るとそれまで北海道商業の中心地であった函館を凌ぐほどになりました。

小樽が発展をつづける中で、一九〇六年に日本銀行小樽出張所は、「小樽支店」となりました。日本銀行は小樽の発展を金融面で支え、そうした中で、一九一二年に辰野金吾らの手による建物が建てられたのです。

銀行が増え手形流通も増加したため、その取引の円滑と安全のために一九一三年には手形交換所が設立されました。

第一次世界大戦期、各地の貿易業者が小樽に進出するなどしたため、会社数が急増しました。このため資金需要も増加し、多くの有力銀行が小樽に支店を持つようになり、小樽の金融界は活況を呈しました。一九二二年に小樽の銀行数は二〇行を数え、小樽は北海道における金融の中枢となりました。小樽と他の地域の資金決済が盛んになり、日本銀行小樽支店はそれを支えました。

日本銀行小樽支店の建築

明治・大正期に小樽の小学校の校長であった稲垣益穂の日記（『稲垣日記』小樽市総合博物館所蔵）（注1）には、日本銀行小樽支



日本銀行旧小樽支店金融資料館。日本銀行や旧小樽支店の歴史を紹介する展示ゾーン

店や銀行の街小樽が造られていく様子が克明に記されています。

稲垣益穂は竣工一年前の一九一一年六月に、建築中の日本銀行小樽支店の見学を訪れ、その様子を次のように記しています。

「…午後日本銀行の佐久間長次郎から電話で見に来いといつて来た。…諸氏同行して見物に出かけた。また落成はしてをらぬがなかなか宏壮な建築である。着手は二三年前からであつたろう。…先づ第一に金庫の大なるに驚いた。…玄関から這入った處は広い用を弁ずる處で、其周囲は美しい大理石である。装飾まで出来上つたら立派なものになるであらう。建築費は四十万円というから、小樽で第一であるばかりでなく、恐らくは北海道第一であらう。」（一九一一年六月二日）

当時、小樽は北海道の海の玄関口として発展しつつあり、日本銀行は、小樽支店の店舗を新築するにあたり、大阪支店に次ぐ建築費をかけ、大正期の近代建築の先駆けとなる技術を用いています。明治から大正への近代建築技術の推移を示す貴重な建物です。

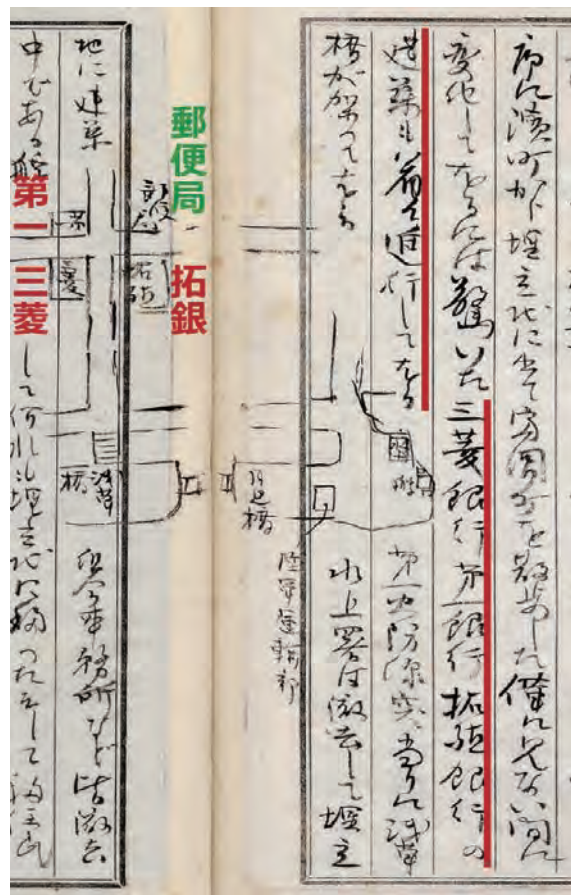


色内町十字街 1924年頃の様子。工事中の第一銀行の様子が見て取れる。左手前角 三菱銀行（1922年）、左奥角 第一銀行（1924年）、坂上奥左手 日本銀行（1912年）、右手前角 北海道拓殖銀行（1923年）（カッコ内は竣工年）

日記が描写している日本銀行小樽支店の建物は、現在もほぼそのままのかたちで残されており、金融資料館として内部を見学できます。

金融資料館は日本銀行の業務を紹介する業務展示ゾーンと日本銀行や旧小樽支店の歴史を紹介する歴史展示ゾーンからなります。このうち歴史展示ゾーンは、初期の国産鉄骨（八幡製鉄所製）を使用した屋根に支えられ実現した、柱の無い

（注1）本年一月まで金融資料館で開催していた特別展「銀行の街小樽 大正時代のモノの値段と小樽のくらし」（小樽市総合博物館と共催）で展示。



銀行建築が進行する様子を記した小樽市民の日記「稲垣日記」33巻 1922年（小樽市総合博物館蔵）

旧営業場の空間を利用しています。そのような建物の特徴、棟札の実物や上棟式の様子など建築史も展示しています。

銀行の街 小樽

辰野金吾とともに日本銀行小樽支店の設計に深く携わっていた建築家長野宇平治は、同じ時期に日本銀行小樽支店斜め前の北海道銀行本店（注②）の設計も手掛けました。そしてその後、この辺りが小樽の銀行街の中心となっていきました。

日本銀行小樽支店が竣工しておよそ一〇年後に小樽経済は最盛期を迎えます。その頃、日本銀行小樽支店前の坂を下った十字路に銀行街が造られていく様子が

先ほどの日記に記されています。

「…浜町から埋立地に出て、富岡町を散歩した。僅に見えない間に、変化してをるには驚いた。三菱銀行、第一銀行、拓銀の建築も、着々進行してをる。…」
（一九二二年九月一日）

ここに挙げられた三つの銀行の建物は、それぞれ用途は変わっていますが現在も使われています（いずれも小樽市指定歴史的建造物）。このほか旧北海道拓殖銀行の並びにある旧三井銀行なども含め、往時の銀行街の景観を楽しむことができるのも小樽観光の魅力です。金融資料館で

は、大正期の銀行街の建物を復元したジオラマを楽しむことができます。

現在の小樽には、往時をしのばせる運河の周辺に数多くの歴史的建造物が立ち並んでいます。その中でも、旧銀行街の中心に位置する日本銀行旧小樽支店金融資料館は、小樽の観光スポットの一つとして、国内外から訪れる観光客のほか、地域の皆様にも親しまれています。

金融資料館で旧小樽支店の歴史や日本銀行の歴史・現在の日本銀行の役割を学んだ後、「銀行の街 小樽」の散策を楽しんでみませんか。

【入館料】 無料

【開館時間・休館日等】 金融資料館HP (<http://www.3.boj.or.jp/otaru-m/>) をご覧ください。



（注②）現在の北海道銀行とは無関係。

名古屋支店が 開設一二〇周年

▼名古屋支店は、東海経済の発展を願う地元政財界からの要請もあって、明治三十年（一八九七年）、日本銀行の六番目の支店として開設されました。現在の業務区域は愛知、岐阜、三重の三県です。



120周年記念ロゴ（地域への感謝を込めて対外公表物等に掲載）



2代目営業所の外観（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

▼一三〇年の歴史の中で、名古屋支店は市内を数度にわたって移転してきました。明治三十九年（一九〇六年）に完成した二代目営業所は、日本銀行本店本



現営業所（昭和39年に完成後、昭和55年に増築）

館と同じ辰野金吾博士が設計した重厚な建物でしたが、昭和二十年（一九四五年）の空襲で焼失してしまいました。昭和三十九年（一九六四年）に完成した現在の店舗は六代目となります。

▼東海経済は大きな発展を遂げ、今や製造業を中心に世界有数の競争力を有する産業の集積地となり、今後もさまざまな次世代産業をリードしていくことが期待されています。名古屋支店は、活力にあふれる東海経済の歩みを金融面からしっかりと支えるため、銀行券供給などの中央銀行業務の着実な遂行、金融システムの安定性確保に努めました。これからも地域の皆様のお役に立てるよう責務を果

たしていきます。

企業物価指数・二〇一五年 基準指数の公表を開始

▼日本銀行は、企業物価指数の五年に一度の基準改定を実施し、本年二月十日から二〇一五年基準指数の公表を開始しました。

▼今回の基準改定では、二〇一五年十二月に基本方針を公表し、皆様からお寄せいただいたご意見も踏まえ、本年二月三日に「企業物価指数・二〇一五年基準改定結果」を公表しました。基準

改定のポイントは、①経済・産業構造の変化を物価指数に的確に反映するための新しい財（例えば燃料電池など）の取り込み、②外部データの積極的な活用による報告者負担の軽減や、通関を経由しない輸出入取引の新たな取り込み、③ヘドニック法の適用範囲の拡充や、調査先企業からの情報に依存しない新たな品質調整方法の導入、④基礎資料に制約がある状況のもと、ウ

エイトの算定に代替的なデータを用いることによるタイムリーな基準改定の実現、の四つです。

▼日本銀行では、統計ユーザーの皆様にとってより使いやすい統計を提供するため、これからも努力を続けてまいります。

▼詳細は日銀HPをご覧ください。

http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2017/ron170203a.htm/

「第二回日銀グランプリ 〜キャンパスからの提言〜」 の決勝大会開催

二〇一六年十二月三日（土）

▼大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「日銀グランプリ」に、今回は全国三八大学から一一八編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、朝田照男氏（経済同友会副代表幹事、丸紅株式

編集後記

■インタビュー「扉を開く」のインタビュアーとして、これまで三人の方のお話を伺う貴重な機会を頂きました。最初の将棋棋士・羽生善治氏は、年齢を重ねる中で「直観」、「読み」、「大局観」の比重を変化させ、さらにコンピューター・人工知能を使いこなす自らの実力をさらに高めようとされています。続くプロサッカー監督・高倉麻子氏は、テクニック、状況判断力に磨きをかければ世界で勝てるという確信を踏まえ、各選手が激しくかつ論理的に自己主張し合い理解し合うことで、組織と個の力を高めて世界一を目指しています。今号の建築家・坂茂氏は、建築家は弱者のためにも貢献すべきとの信念のもと、世界の被災地で「紙管」という全く新しい建築素材を用いて被災者を支援され、さらに独自の建築材料や構造システムの開発を目指しています。三人の方に共通するのは、蓄積された経験を基に本質を見極め、イノベーションを興し、自ら新しいスタイルを築こうとする未来志向の姿勢です。このインタビュアーの仕事は、こうした賢人の前向きな姿勢に大きな刺激を受ける素晴らしい役得です。次回夏号は天皇陛下の手術を執刀された心臓外科医・天野篤氏にお願いする予定です。ご期待下さい。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2017年春号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

会社取締役会長)、鳥海智絵氏
(野村信託銀行株式会社執行役



決勝進出5チームと審査員の皆さん

(写真：野瀬勝一)

社長)の他、岩田規久男日銀副総裁(審査員長)、原田泰・布野幸利両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、東京理科大学経営学部チームの「きものな休日 神楽坂」地域通貨「神楽坂きもの小判」ときものレンタルを利用した『和の街づくり』が選ばれました。

「統計データや独自アンケートから着物レンタルの潜在需要を分析し、レンタル着物店や神

楽坂商店街におけるヒアリング調査をすることにより、神楽坂商店街の抱える問題を明確にしている」点などが高く評価されました。この他、優秀賞に学習院大学経済学部チーム、弘前大学文学部チーム、敢闘賞に東京経済大学経済学部・経営学部チーム、中央大学経済学部・法学部・商学部チームが選出されました。

▼審査員からは、「多様な問題点や課題を把握し、統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自

身の抱いた問題を解決してあり、具体的で実現可能性を感じさせるものだった」との総評がありました。

▼日銀グランプリについては、日銀HPに専用コーナーを設け、決勝参加チームの作品全文と審査員講評および奨励賞論文の要旨を紹介しています。また、同コーナーやYouTubeでは決勝大会の模様を収録した動画も配信しています。



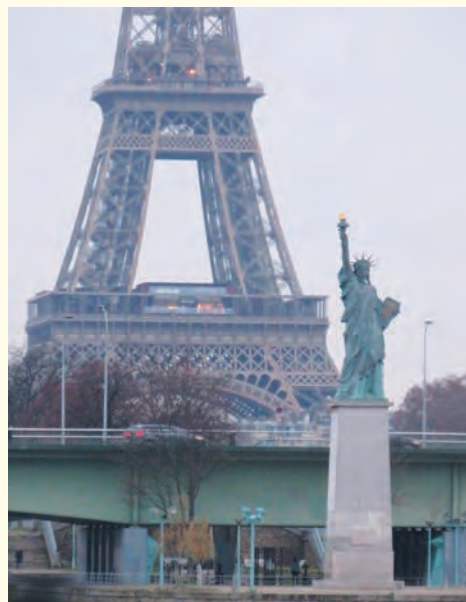


from Paris

フレンチ・ドリーム

「アメリカン・ドリーム」という言葉は、良く知られています。生まれや育ちに関わりなく、誰でも、才能や努力次第で、栄誉や富をつかむチャンスがあることを表す言葉です。「フレンチ・ドリーム」という言葉も時折目にしますが、多くの場合、ある程度の財産を持った人がフランスに移住して、洗練された家具や絵画、おいしい食事に囲まれ、優雅な暮らしを送ることを意味するようです。

もちろん「アメリカン・ドリーム」に似た世界もあります。私自身がそれを感じるのはサッカーです。フランスには、旧フランス領を中心に多くのアフリカ系の人々が、サッカーを通じて成功を収めることを夢見て暮らしています。実際、2000年前後にはジダンというアルジェリア系の選手が大活躍してスーパースターとなりましたし、現在のフランス代表には、ポグバというギニア系の選手をはじめ、何人ものアフリカ系の選手が名を連ねています。私の息子が所属するサッカークラブでも、多くのアフリ



アメリカから返礼として寄贈された自由の女神像

カ系の子供たちがプレーし、ゴールを決めるたびにポグバ選手のまねをしています。

ただ、フランスはアメリカに比べ、伝統や文化に対するこだわりが強く、階層意識と批判的精神も根強いいため、こうした意味での「フレンチ・ドリーム」の実現は、容易ではないようです。近年は、失業率の高止まりやテロの発生も影響し、移民に対する反感が強まっているのでなおさらです。

「アメリカン・ドリーム」の象徴とされるニューヨークの自由の女神像は、フランスから贈呈されたものです。そして、パリのセーヌ川にかかる橋のもとには、少し小さめですが、やはり自由の女神像が立っています。この国で、多くの「フレンチ・ドリーム」が実現することを願っています。

(経済協力開発機構、本部：パリ)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



毎週土曜日は試合の日。クラブの月謝は安く、ユニフォームも安価で支給されます



ポグバ選手がゴールを決めた後にとる「ダブ」というポーズ。世界的に流行しました



にちぎん